

授業科目名	小児保健看護学臨地実習	担当教員	◎吉川 一枝、吉野妙子
必修	開講年次：3年後期	単位：2単位	授業形態：臨地実習 90時間

【授業概要】

子どもの生活援助と看護に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。技術はアセスメント、コミュニケーション、日常生活の援助、検査・介助等を安全かつ容易に実施する方法を含み、臨地においては、子どもと家族が置かれている状況を的確に判断し、成長・発達や様々な健康状態に応じて看護を全人的に実践する。

【授業目的・目標】

1. 各年齢層の小児のアセスメントを実践する。
2. 子どもの成長・発達に応じた子どもと家族への看護を実践する。
3. 子どもの健康状態に応じた子どもと家族への看護を実践する。(入院、外来、学校、保育所等)

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」、「小児保健看護学概論」、「小児保健看護学援助論」を修得していること

【授業計画】

保育園・幼稚園・こども園実習

実習1日目 オリエンテーション、園児の活動に参加する

実習2～4日目 園児の活動に参加する

実習5日目 報告会 まとめ

小児病棟実習

実習1日目 オリエンテーション、情報収集

実習2～4日目 受け持ち患児を通して看護を実践する

実習5日目 面接、まとめ

【教科書】

指定なし

【参考書】

小児保健看護学概論、小児保健看護学援助論で使用したテキストを参考書とする。

1. 奈良間美保著他(2016)系統看護学講座小児看護学(1)小児看護学概論小児臨床看護総論,医学書院.
2. 奈良間美保著他(2016)系統看護学講座小児看護学(2)小児臨床看護各論,医学書院.

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価(80%)、カンファレンス(20%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：小児保健看護学概論、小児保健看護学援助論の学習内容を復習する。小児保健看護学援助論で示す症状看護、事例で出題された疾患についてまとめる。

事後学習：1日の実習終了後に受け持ち患児との関わりから学んだことを振り返り記録する。実習全体から小児看護における看護師の役割に関する考察をレポートとして記述する。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ.根拠に基づいた看護実践能力、Ⅸ.あらゆる対象に向けた包括的看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録は、学生個人に返却する。

【備考】